

蒲生干潟周辺の塩分濃度 72

Table.1 2025. 1月 塩分濃度(%)

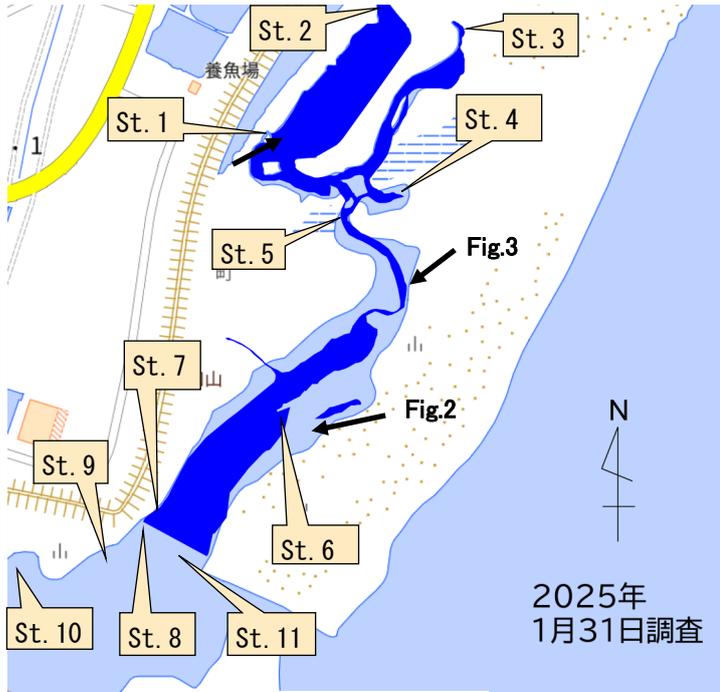


Fig.1 2025/1/31 採水点

採水点	2025 1/31	2024 12/18	増減	2024 2/3	増減
St. 1	3.0	1.3	1.6	0.6	2.4
St. 2	1.2	1.8	-0.6	1.0	0.2
St. 3	1.9	2.2	-0.3	1.0	0.9
St. 4	2.7	2.4	0.3	1.4	1.3
St. 5	2.9	2.0	0.9	0.8	2.1
St. 6	3.2	2.7	0.5	2.2	1.0
St. 7	3.5	3.4	0.1	3.1	0.4
St. 8	3.5	3.4	0.1	3.2	0.3
St. 9	3.6	3.5	0.1	-	-
St. 10	3.5	3.3	0.2	1.7	1.8
St. 11	3.6	3.3	0.3	3.0	0.6

※ 汽水基準値(0.05~3.0%)



Fig.2 St.6付近 南東潟湖分断の様子



Fig.3 北東ピオトープとつながる水門の様子

調査日時：2025年1月31日（金）13:00~14:15（満潮 16:26 潮位 150cm），天気：晴れ

干潮後の満潮に向かいはじめる時間帯での調査。Fig.1に示す採水点St.1~St.11を対象に塩分濃度の測定を行った。塩分濃度の測定については前月までと同じ方法で行った（過去レポート参照）。それぞれの結果を2025.1月塩分濃度(%)としてTable.1に記載し、前回までの調査(2024.12月, 2024.1月*測定日は2/3)結果と比較した。

潟湖内の水量は、全体的に非常に少ない状態であった。南東潟湖は、接続部分が干上がり分断していた（Fig.2）。潟湖内の塩分濃度は、St.1が特に高い値を示した。2024年平均は1.3%であったため、その差が非常に大きいことがわかる。測定日のSt.1付近は、北西ピオトープからの水の流れがほとんど見られなかった（Fig.3）。南側潟湖やSt.5の数値も高かったため、濃度の高い海水が多く流入してきたことが要因の一つと考えられる。次回以降の変化に注視していきたい。

(沼尾和弥)